

認知症アセスメントシート活用マニュアル

特定非営利活動法人秋田県介護支援専門員協会（H25.10版）

《活用のねらい》

- 認知症高齢者の置かれている状況を的確に把握する
 - ① ご本人の出来ていたこと、出来ること、していることに焦点をあてる。
 - ② ご家族とケアマネジャーが協働で作成するアセスメントシートとし、ご家族の視点転換を図り、ご本人に対する共感的理解が促進される。
 - ③ ケアマネジャーとご家族の信頼関係を深化させるのに役立つ。

- ケアプランに反映しやすくなる
 - ① 各事業所で用いている既存のアセスメントシートをそのまま用い、それに追加する形のシートとして作成する。（事業所のアセスメントシート+ α として）
 - ② ご本人やご家族の思いをわかりやすい形で表わすことができるものとする。

- サービス提供事業者相互が情報共有できる資料として活用できる
 - ① ご本人の生活歴や感情など、またご本人の価値観や生活習慣などについて把握し情報提供することにより、サービス提供者にとって役立つものとなる。

《作成の経緯》

公益財団法人大同生命厚生事業団の助成を受け、秋田県介護支援専門員協会調査研究部会において認知症高齢者のケアプラン作成に活かすアセスメントシートの研究開発を行ったものである。

《活用の前提条件として》

まずは、認知症が主治医により診断されている方に対しこのシートを用いることとする。認知症かどうか不明な方に対しては、シートを活用の前に、事前に「認知症スクリーニング用アセスメント項目」（※秋田脳血管センター 長田乾医師の助言により作成）を用い、ケアマネジャーとご家族がそのアセスメント結果を確認しあってから、本シートの作成に取り組んでもらいたい。

本シートについては、ケアマネジャーの面接スキルがある程度要求されるため、面接の基本技術などを押えておくと進めやすい。作成にあたっては、ご本人やご家族とのコミュニケーションがある程度図れている状況で作成することを意図している。したがって、初回面接の段階では活用の際に十分に留意する必要がある。

このシートによって、ケアマネジャーの面接場面における家族との会話や本人への聞

取りを通じて「共感的理解」が促進されるものとした。ただし、認知症の人を抱えるご家族の状況をしっかりアセスメントし、適切な段階で用いなければかえってご家族の戸惑いや負担、ケアマネジャーへの不信感が大きくなるリスクもあることを踏まえる。
 ※（表-1）「1段階：とまどい、否定的なケアをする段階」では原則このシートを用いない。

（※表-1）

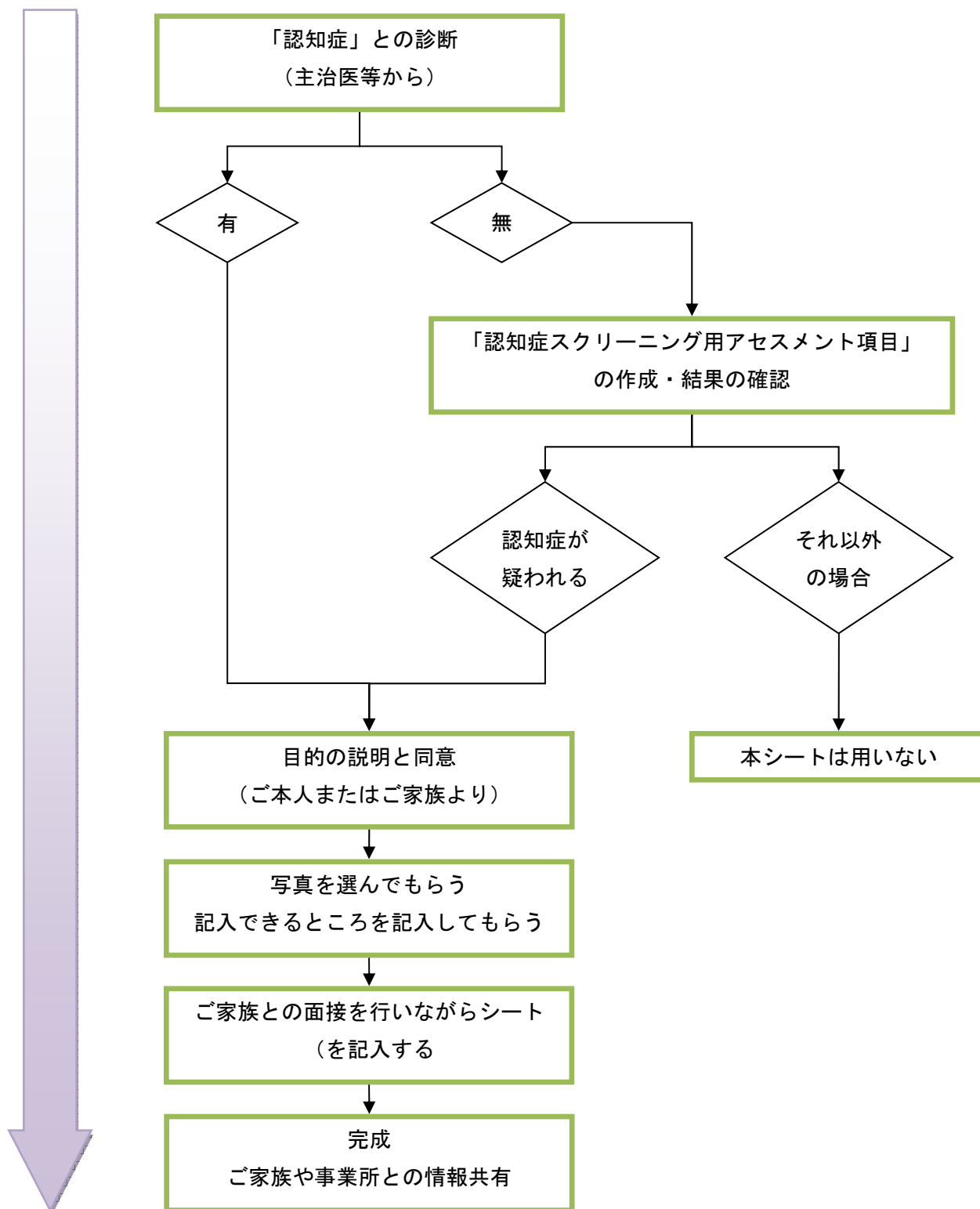
| 段階 | 特徴 | 具体的行動 | ケア |
|----|------------------------------|---|---|
| 1 | とまどい、否定的なケアをする段階 | <ul style="list-style-type: none"> • おかしい。どうしたのかしら？ • わがままなのかな • 怒ったり、強く叱る • こういう人とずっと一緒だと思いと嫌になる | <ul style="list-style-type: none"> • 受診を促す • 傾聴 |
| 2 | 身内が認知症であることを認め、否定から脱しようとする段階 | <ul style="list-style-type: none"> • 情けない • これが認知症なのか • 軽くあしらう • 言ってることに取り合わない | <ul style="list-style-type: none"> • 見守り • 傾聴 • 励まし • 認知症に関する知識提供 • ケアモデル提示 • サービスに関する知識提供 • 介護教室・家族会などの紹介 |
| 3 | 認知症の人に期待をつなぐ段階 | <ul style="list-style-type: none"> • 説得したり、怒ったりしてわからせる • このぐらいだったらわかるだろうと、簡単なことはやらせる • いつもの仕事をお願いしてみるが、できないと注意する | |
| 4 | あきらめ、放棄する段階 | <ul style="list-style-type: none"> • 何を言っても無駄だ、ダメだ • 怒ったり叱ったりすることが少なくなる • 一応間違いは訂正する • ただ見ているだけ • あまり干渉しない | |
| 5 | 新たなケアの試みの段階 | <ul style="list-style-type: none"> • 家族が怒ったり、叱ったりすると結局症状が悪化するようだ、とわかる • 怒っても分からないから、家族が惨めな思いをする • 少しやさしく接すると落ち着くことがわかる | <ul style="list-style-type: none"> • サービスに関する具体的なアドバイス • ケアのアドバイス • 介護教室・家族会などへの勧め |

（引用：六角僚子、「認知症ケアの考え方と技術」P32、医学書院、2005）

また、本シートで認知症の方のすべての状態がアセスメントできるわけではない。既存のシートの活用や普段用いているアセスメントシートと併用しながらアセスメント

する。本シートはあくまでも「共感的理解の促進」を意図した補足的なシートであり、活用の際は留意すること

《活用の流れ（イメージ）》



《シートの作成手順（基本的な流れ）》

1. シートを活用すべき利用者の選定

※選定の際の基準として以下のポイントを参考にしてください。

- ① 利用者本人へのアセスメントが不足している
- ② 家族が利用者本人の認知症を認めながら、悩んでいる（P 2 表-1 参照）
- ③ サービス提供者に利用者本人のことを伝えたい
- ④ 利用者本人への共感的理解を促進したい・・・

注：一人暮らしの方などについては、進め方に工夫が必要となる（遠方のご家族らとの調整など）

2. 利用者および家族への説明と同意

本人及び家族に対し、シートの活用目的や活用の流れについて説明する。

（※添付別紙「認知症アセスメントシートの作成に関するご協力について」参照）

3. 写真を選ぶ

利用者本人とともに選んだり、家族に選んでもらったりする。一緒に選ぶ場合は、選びながら、撮影時のイベントなどを聞き取りすることも意識しながら行うと良い。

4. シートについて、記入できるところを記入してもらう

ご本人やご家族が記入できないところは、無理に記入してもらわず、ケアマネジャーとの面接を通じて作成する。

5. シート作成にあたって

| シート名 | 項目 | 作成にあたって |
|---------------|------------------|---|
| 個人年表 | 「年（または歳）」 | 「30代」「結婚前」「若いころ」などの表現でもOK。忘れてしまった場合は空欄でもOK。 |
| | ご本人の記憶や家族からのコメント | 事実だけでなく、その出来事に対する主観、例えば、ご本人の感情（楽しかった、悔しかった、楽しかったなど）や、ご家族の感情や評価（すごいな、嫌だったなど）などを書いてかまいません。自由に書いてください。 |
| 自己紹介 （発症前） | ①仕事について | 仕事についての記載のほか、その仕事に対する思い（楽しかった、つらかった、嫌だったなど）なども書いてかまいません。 |
| | ②家庭内の役割について | 家族の中での役割の変化（若いころ、結婚後、育児期、子の独立など）についても、確認できたら確認しましょう。 |

| | | |
|--------------|---------------------------------|---|
| | ③得意（好み・し好）、不得意（苦手）について | 具体的な視点としては、趣味、特技、好きな食べ物、好きな動物、仕事や交友関係との関連など。あるいはその逆。 |
| | ④交友関係、地域や親類との関係について | 学生時代、仕事の交友関係、親類との付き合い、地域内の役割（自治会、婦人会、老人クラブなど）、あるいは家族との関係でもかまいません。 |
| | ⑤性格（あるいは口ぐせ）、特徴について | 特徴については、身体的特徴や態度・表情なども含め、自由に書いてください。 |
| | ⑥大切にしていることや大切にしているものについて | 視点としては、考え方、態度、関係、日課、役割、ペット、モノ、自慢など。 |
| 自己紹介 （現在） | ①できること、していること（役割や日課など）について | 認知症となった今の状況の中で、ご本人の気持ちや立場になって考えるよう努めましょう。 考えるときには「個人年表」や「自己紹介（発症前）」も参考にしながら、想像してください。 ケアマネジャーとご家族とで話し合いながら、書いていきましょう。 |
| | ②頼りにしている人、なじみの人（家族や友人、親類など）について | |
| | ③楽しみにしていること、やってみたいことなどについて | |
| | ④心配なこと、悲しいこと、不安なことなどについて | |
| | ⑤大切にしているもの、なじみのモノ、安心できる場所などについて | |
| | ⑥その他（意向や要望など自由に） | |

※相談面接技法

参考：岩間伸之、「～逐語で学ぶ21の技法～対人援助の為の相談面接技術」中央法規、2008

| | | |
|-----------------|----------------|----------------------|
| 1. アイコンタクトを活用する | 8. 言い換える（関心） | 15. 感情表出を促す |
| 2. うなづく | 9. 言い換える（展開） | 16. 感情を表情で返す |
| 3. 相づちを打つ | 10. 言い換える（気づき） | 17. 感情表現を繰り返す |
| 4. 沈黙を活用する | 11. 要約する | 18. 感情表現を言い換える |
| 5. 開かれた質問をする | 12. 矛盾を指摘する | 19. 現在の感情を言葉で返す |
| 6. 閉じられた質問をする | 13. 解釈する | 20. 過去の感情を言葉で返す |
| 7. 繰り返す | 14. 話題を修正する | 21. アンビバレント※な感情を取り扱う |

※アンビバレント…「好き／嫌い」「行きたい／行きたくない」などの対峙する2つの感情を同時に含んでいることを意味する。

6. シートの完成と共有

このシートは、複数回の面接を通じ時間をかけて作成することも可能である。作成途中でもサービス提供者への情報提供として活用可能なほか、ご家族へコピーを渡すなどすることにより、他のご家族などとの共有も可能となることを意図している。

ケアプラン作成のニーズとして抽出するには、課題も残っているが、まずは認知症の人に対する共感的な理解を促し、またご家族やサービス提供者とのパートナーシップを確立していくことを目的としている。また、各種サービスを利用するにあたっての情報提供として、活用していただきたい。

《別紙》

_____様、ご家族様

(説明者)_____

認知症アセスメントシートの作成に関するご協力について

いつもたいへんお世話になっております。

さて、この認知症アセスメントシートの作成にあたって、以下の項目を説明させていただきます。ご不明な点がありましたら、遠慮なくお尋ねくださいますようお願いいたします。

1. このシートの目的

- 認知症のご本人が置かれている状況をつかむ
- ケアプラン（居宅・施設サービス計画書）に反映される
- サービス提供する職員が共有できる資料として活用する

2. シートの取扱い

このシートは、ケアプラン作成のために用いるほか、適切なサービス提供を行うための情報として関係者に情報提供する場合があります。

3. 個人情報の保護について

記入されたシートを、上記1の目的外に使用する場合は、あらかじめ説明し承諾を得て、さらに個人が特定されない状態で提供します。その他は当事業所の個人情報の取扱いに準じます。

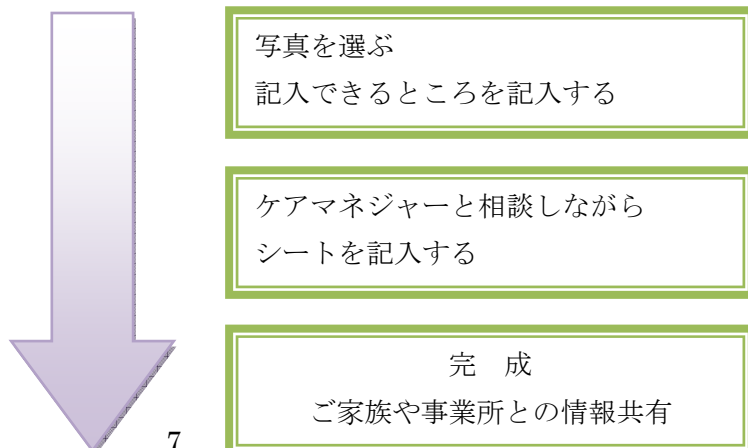
4. 記入にあたってのお願い

書けそうなところだけ書いてかまいません。書けないところはケアマネジャーと相談しながら書きましょう。

5. その他

このシートの作成に承諾・協力できない場合においても、何ら不利益を受けることはありません。

《流れ（イメージ）》



ケア田マネ吉 様 の 個人年表

(生まれてからこれまでの暮らしにおけるできごとを、**わかる範囲で記入してください**。記入がたいへんな場合はケアマネジャーと話しあいながら記入してもらいましょう)

※行が足りない場合は、用紙を追加してください

| 年 (または歳) ※おおよそで可 | できごと | ご本人の記憶や家族からのコメント (ご本人が話していた言葉や思い、 またはご家族からのコメントについて記入して下さい) |
|---------------------|------------|---|
| 0歳 昭和5年 | 生まれる | 長男として生まれ、跡継ぎができたと言われる。その後、弟二人、妹三人が生まれている。 |
| 16歳くらい | 県の陸上大会で入賞 | 県の大会の走り幅跳びで5位に入賞する。実力が出せなくて悔しかったと話していた。そのころの友達とはずっと付き合い合っている。 |
| 18歳 | 大学進学 | 東京の大学で建築を学ぶ。一級建築士の免許をとった。「都会は人が住むところではない」と話していたことがある。 |
| 22歳 | 就職 | 〇〇市役所に勤める。土木課に配属される。上司や同僚、仲間とよくお酒を飲んだようだ。そのために親にも叱られたと話していたことがある。 |
| 25歳 | 結婚 | 友人の勧めで同じ市役所の▲▲と結婚する。新婚旅行は東京と熱海であった。写真は今でも残っているが、かなりかっこつけた写真(ブロマイド風)。 |
| 30歳 | 子が生まれる | 結婚5年目でようやく第一子をさずかる(私のこと)。しかし病弱で生まれたので、とても心配して毎日市役所から病院に通ったそうである。 |
| 40代 | PTAの役員を務める | 子どもは私を含め3人であるが、小学校のPTAの役員を務め、知り合いが増えた。市役所でも、係長になり毎日忙しくしていた。その中でも毎年旅行に連れて行ってくれた。 |
| | 野球チームに参加 | 趣味は朝起き野球、子どもたちにも野球をさせる。ジャイアンツの長嶋茂雄の大ファン。新聞も読売新聞を読んでいた。 |
| 60歳 | 定年退職 | 市役所を退職してからは、野球のほかに囲碁も始めた。囲碁をするよりも囲碁仲間と会話をするのが楽しかったようだ。その頃、子どもたちが独立し妻と二人暮らしになる。 |
| 70代 | 病気になる | 糖尿病といわれ、それからはあまり飲み会に行かなくなった。友達も何人が先立つ人も出たようで、葬式に出るのが嫌だと言っていた。 |

記入例

ケア田マネ吉 様 の 自己紹介（認知症を発症する前）

認知症を発症する前のご本人が、自分のことを自己紹介するとしたら、このようなことを言うのかもしれないということについて、ご本人の代わりに（あるいはご本人の言葉）記入してください。記入がたいへんな場合はケアマネジャーと話しあいながら記入してもらいましょう。

① 仕事について

〇〇市役所に定年まで勤めました。退職の際は、水道局部長でした。市役所に勤めたおかげで知り合いがたくさんできました。そのつながりが宝物です。

② 家庭内の役割について

家事はほとんど妻に任せていました。育児もあんまりしたことはありません。でも、子どものしつけには厳しかったと思います。特に、「人に迷惑をかけてはいけない」ということは厳しくしつけました。子どもの行事には積極的に参加しました。

③ 得意（好み・し好）、不得意（苦手）について

得意なことは「野球」。セカンドを守っていました。あと足も速かったです。算数は得意でそろばんも2段でした。

苦手なことは、音楽です。歌はへたくそで人前で歌ったことはありません。

このスペースには、一番ご本人らしい写真を貼ります。ただ、大事な写真ですので、ケアマネジャーにコピーしてもらうなどして貼ってもらいましょう。



④ 交友関係、地域や親類との関係について

高校時代や市役所時代の友人がたくさんいます。家族ぐるみの付き合いをする友人とは、一緒に旅行とか行きました。

地域では、自治会の会計を頼まれてやりました。地域の行事にも積極的に参加しましたし、新類の付き合いもまめにしていました。

⑤ 性格（あるいは口ぐせ）、特徴について

わりと我慢強いと思います。最後までやりぬく根気があります。

ただ、正義感が強く時々ぶつかることもありました。

口癖は「ちゃんとズボン下はいて冷えない様にしないとだめだ」でしょうか。

⑥ 大切にしていることや、大切にしているものについて

家族のつながりは大事です。写真が趣味で、家族の写真はたくさん撮りました。

友達も大切です。特に高校時代からの友人は今でも付き合いがあります。

野球もしました。長嶋茂雄サインボールは、大切にしています。

記入例

様の 自己紹介（現在の状況）

いまご本人が、自分のことを自己紹介するとしたら、このようなことを言うのかもしれないということについて、ご本人の代わりに（あるいはご本人の言葉）記入してください。記入がたいへんな場合はケアマネジャーと話しあいながら記入してもらいましょう。

① できること、していること（役割や日課など）について

- ・朝玄関まで新聞を取りに行く
- ・犬に餌をやる
- ・買い物に行った際に食べたい物を選ぶ

② 頼りにしている人、なじみの人（家族や友人、親類など）について

妻を頼りにしています。ただ、妻は女の人なので、大事なことは長男に相談しなければと思っています。

③ 楽しみにしていること、やってみたいことなどについて

友人からの電話が時々あります。
近くの公園まで犬の散歩に行き、小さな子供たちの遊ぶのを眺めるのが好きです。



④ 心配なこと、悲しいこと、不安なことなどについて

物忘れしてしまうことについては自覚しています。それがとても辛いと思っています。
一人でいると不安が強くなります。特に夜になるとさびしく感じます。

⑤ 大切にしているもの、なじみのモノ、安心できる場所などについて

- ・犬（タマという名前）
- ・長年愛用のカメラ（時代ものです）
- ・居間のソファに寝そべてすごすのが好きです

⑥ その他（意向や要望など自由に）

私の物忘れは治らないのでしょうか。
他の人にお世話になることは、とてもありがたいのですが、迷惑をかけていると思うと辛いと思うこともあります。